北學の來法

911.3
4

自序

右之選

[illegible]の[illegible]の[illegible]と絶えて一篇の
小冊となりて[illegible]されば
風雅の[illegible]の[illegible]を頒ち[illegible]
[illegible]の遺[illegible]
今の画い中[illegible]の紅二[illegible]と
[illegible]家[illegible]の道一[illegible]
次に東巷[illegible]の一[illegible]世に
[illegible]東西[illegible]の文[illegible]

して[illegible]文[illegible]の一唱[illegible]
集号の[illegible]
[illegible]
下句の須[illegible]地[illegible]碧く[illegible]と
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

粟庵語

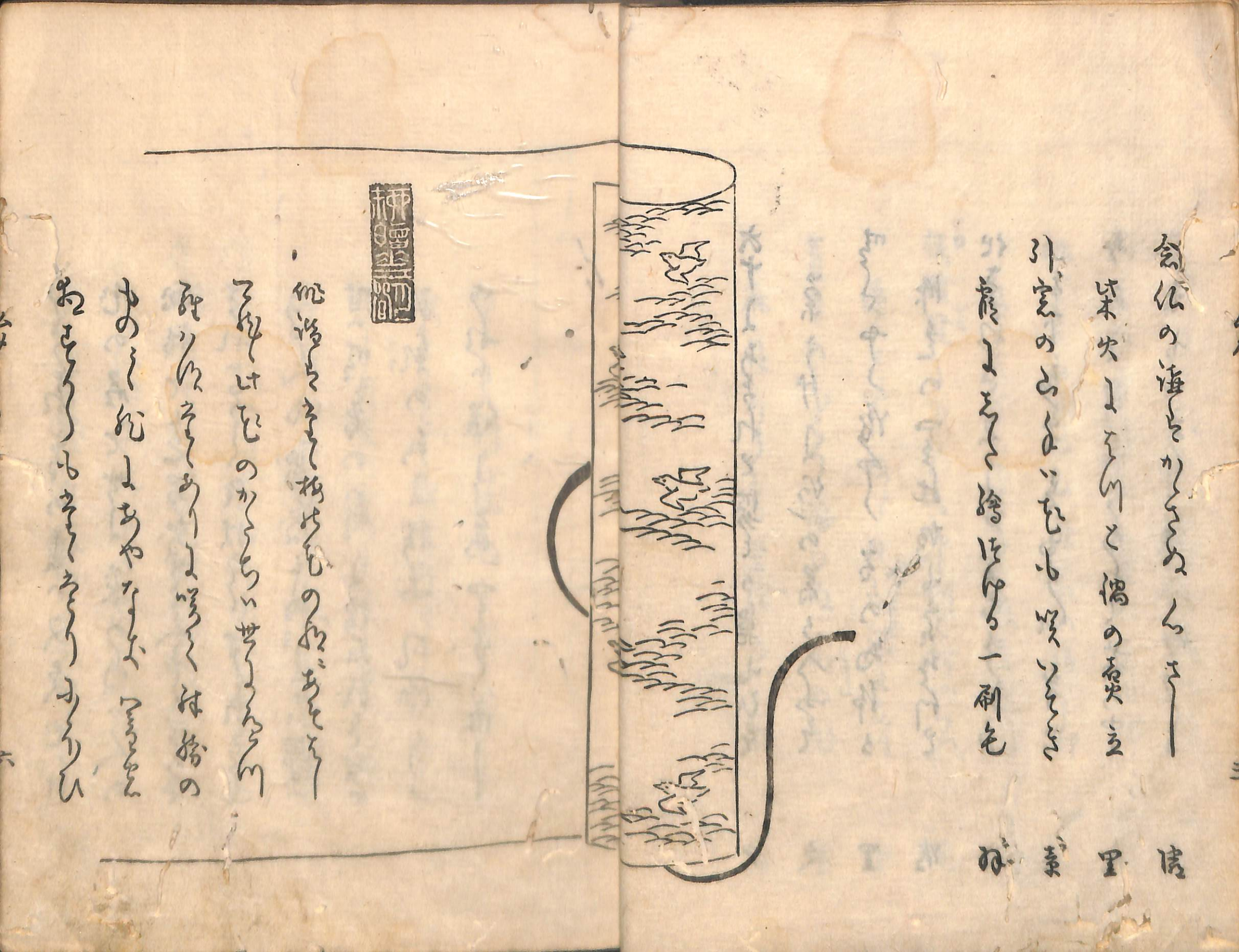
なを写して遠く歴代の初志を伝さとく四方の風騒ふ
さとりしるし風雅ふ金菓の
変りを求るもとう

寶暦癸酉仲夏日

桐村

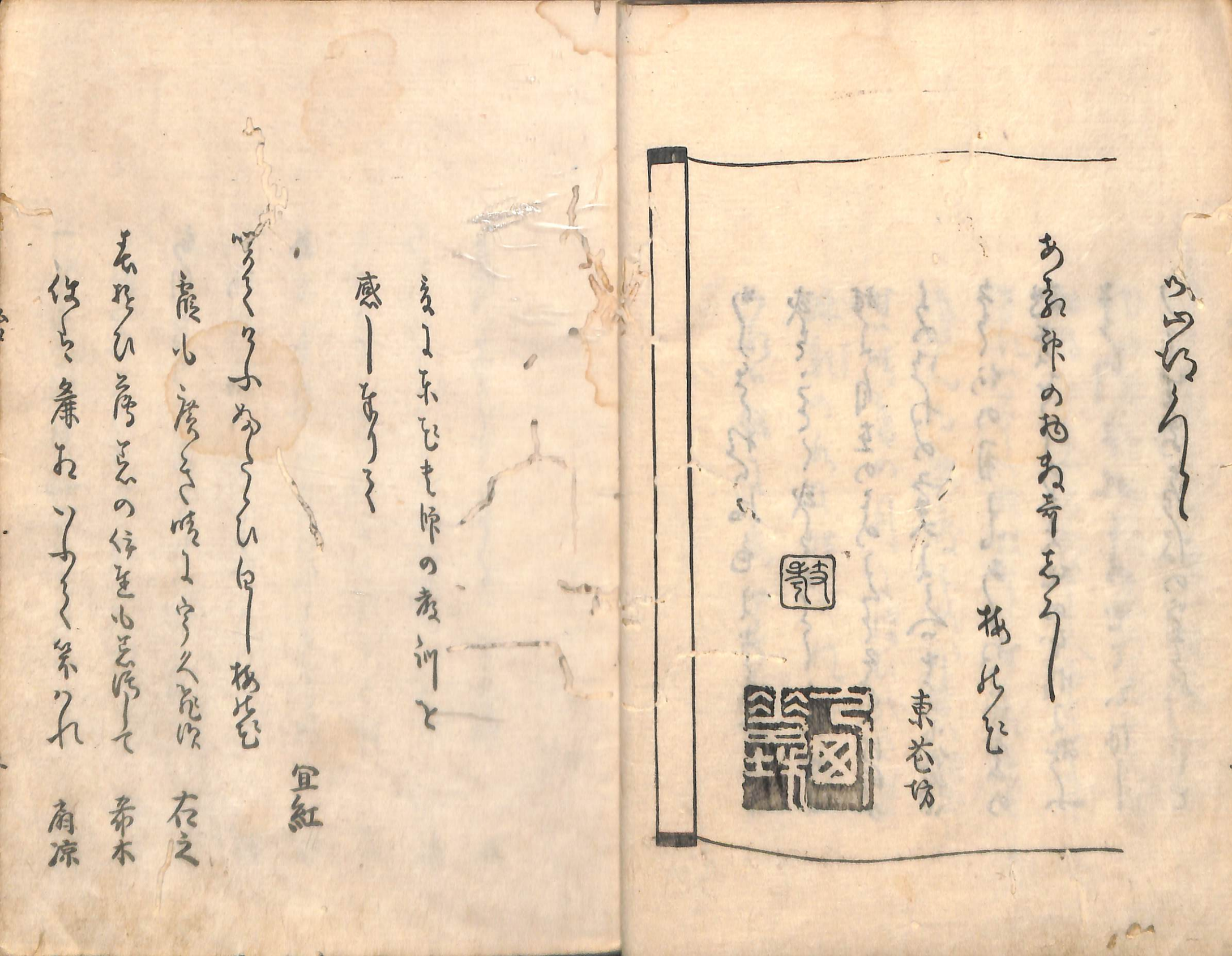
青葉さゝ新心ちゝけとゝの月　風羽
よ入よ咲き　葉の若葉　由章
細おゝく心丹ゝる矢筈の張ひさけ　之
氣書生なゝ　京よ遥百　文
柏(カヤキ)後よゝ心ゝ心ゝと探へられ　信
陸ゝ中ねゝ心通よゝり　里
菁菅のゝ厨りゝ　京の　京
麻柱ゝゝ　余江の　羽

六十よゝ　文
京ゝけよ行の若ゝ入ゝ　之
時ゝ中ゝ後中ゝ　言の　里
源氏の雲丸　信
化ゝれゝ　金七ゝひと　羽
お下ゝ　京
ゝ月心ゝ　之
ゝ七ゝ後ゝ　文



かくれなきの書は文をせけ
むの名を世に求めぬ人の
俳諧をあそびものとしてなりて
されはこそ能はてすれなと
かゝる心あるこそめでたし深き
時は晴雲の月に浮ひ浅き時は
謡歌の外に於て風流あり
これは俳に為ゆきて勝し

かくされたる情色にまよひやすし
或ときは或ときあらはしくに世に
誠に自在のものとしてそれは法師か
よみ法の変にして人は更に俳諧は
書く所の用にあらねと宇宙の
精粋をしるし天地の本情に於て
さらにこれをこの世とおなはし
うて生存滋味の流れをあらしさて



東巷坊

一ツ屋に宿りする月の芋　芋花
秋冥して侍るはなる　西林
ものなりとまとも乃恐ろしかりし　之
海津仲丁　遠　ここちす　和
蒲山系乳のしかりうるおひ　原
ここちして系統とうけうさ　末
ちあ面くい事と知るの侍る哉　林
嘆ちるる　元禄　花

為博子君の門人林室山吉備並　和
こころ　浦の　月　之
夕乳の夢山　旅信　末
おくく山用のこうれかり地　原
恰合山係て　の　作　海　花
ろろく　窮ろうこふ　塩　林
りの　情ろ遠て月の新　之
為人の　秋のうひしさ　和

衣装は何不て来れさ寒さうな　凉

染は田舎と見しめ紋染　木

縫ひ目まかきれいつよの也けり　林

衣も縫ひの竹ふ　斉代　杉

誹諧曽我

こゝしのたもと紙子越の沼舎よ
ありしりけ地の道中は蕉門に
志深く覚えん何ゐよ湖の

浦波もかすみふるくえくへ
行りて

あるへはは。波もなの
ゆり咲
[illegible]

黄雀離
宮内文庫

はは地より出一軸ありて作者の二字
をを徴より出雅の面白をもふ
ををふみやびくもををゆき
をを稚り地の涼余ををを

桐賀

ををの春へやをも をを咲
小春の春へ ちむ夕東 右之
嘆簑とあけぼや蕨茶の香も洩て 松宇

かちめ 絵も えら息(てメ)ゑ 可眠
ゆゝと月の簾も吹 移ると苔かくれ 洪水
房も一枠 かゝれ 村雲 実
(り)孤丸の幅 ゝとあつめ 簀子 標 え
菓子 ゝとゆ の歩らりさうひ 字
佛(い)花となりても ふゆ法 絵 眠
ゆゝわ ゝと ゝるい ゝ汁 あ
おらと松 ゝ 橋に 生 ゆ 里 実

ゆゝい 医 弁 ゝ ゝ ゝ ゝ も え
地 ゝ も 絵 ゝ ゝ め 片 体 字 字
塚 ゝ ゝ れ ゝ ゝ れ 一 ゐ 眠
美 れ ゝ と ゝ け て の 房 鳥 帽 あ
格 組 ゝ ゝ 池 い ゝ れ く 実
世 ひ 尖 ゝ 曲 窓 の 玉 木 の 生 ゐ え
的 の ゝ ゝ の 孫 め ゆ ゝ も 字
世 丸 中 の ゝ ゝ ゝ 張 ふ 月 の 秋 眠

[illegible]　芳松
[illegible]　夢株
[illegible]　負旭
[illegible]　昌坊
[illegible]　忱十
[illegible]　幾嶺
[illegible]　麦水
[illegible]　春女

[illegible]　訳之
[illegible]　大睦
[illegible]　孤圭
[illegible]　幾布
[illegible]　稲朱
[illegible]　桃岳
[illegible]　風来
[illegible]　壺中

春雨や眠れ柳も桑なきたち　東武　五雨

永き日も人よきみて若菜の日　信州　鷺川

君か菜の手前しさや若菜摘　糸魚川　佳之

京北町さへまた嗅し若菜の日　仙台　小濱

春かすみともしと中よ柳かな　仙風

桃いろの春や花の香のかほし　龍言　浮涯

吹けるくも馬のたてかみ柳かな　小諸　左川

春たちよ多くのあまるはかくれ　長岡　柴鶯

月の夜ふけもまさきぬひとりは　北芝

今一條の花見れ桜あり芳野　鳥宮

猫さけぬいうりよ鍋の世帯は　松尾　六蛙

柳ちりてみたし若菜摘　里仙

花ひらくとさりめて初めて桜かな　魚之

白鷺の桑よ雨ふりて桜は　能登　花北

人まちて川ちらし花も朧月　李邦

白吹のわ和や無き保ちひても　巻　杜洲

蝶も来てあそふにきえや春の雨　南枝

白雲の帯仕舞して山ほとゝきす　摂念　松花

七夜や菜摘も似く神ふかけ　深川　東枯

積ちて降く猶よりわれてねさめ　柏田　百齢

秋の菊むしく雨の柳かの那　新津　枝風

菜をとかきさてちらし花やさし桜　黒川　素詠

蝶るも来てほくれや糸桜　二山

蝶ちて降く花をめ雪の若菜は　新香田　洋虹

行春を松より引さらふ尾花かな　梅右

余江のかくえ遠手秋や橘の香　桐里

春雨や女房の気えや中てゆり　竹布

気細とあつく笄や秋をもし柳　新潟　松只

絲よ深うかゝうて咲きかり桃の花　巴洲

初午や稲荷おかりし夕霞　乙英

汲を挿く側にも眺る柳かな　貞子

花に来ての花をとまりめて柳かな　山桂

盆とらけぬ桃白ふ咲梅本は　此哉

花菜や涼谷の青戸の秋白和　葛二

堀ほりぬ元のまゝや松虫　匠中　西林

春雨や紙子の尾かしけ流し退そ　法弘

枕ねぬ身を涼係の深入は　桐堂

消るや藤葵の君に包ぬ先　帝本

薬や浪掃く行市あり　以文

今宵出そむるのきぬかさん

法の浪山下よ旅衣也一頃

花この梅も寿とこわく

右之

梅よきゝくるも笑めくらかに

並の葉下よ枝へ　花草　童子

雑裏の花わかし寺チンとのぶかせて　竹右

ムメ

孫生たるあまりの秋の治舎
ちらすもての めし波ふ下よ
帰るありて風雅のありと
旅ならふ憐てこしろよ
風ふうつと義くく伊彦とら
ちんもうかりけるを
いふかりけんは
それもむよる

白話

蓑の紙

ひ咲めあらて立りよ咲るや月に　魚津　衍彦
青梅うも鷺の立あや嘯ー云　高岡　左和
おく雲も田舎ちまくーおむ畑　金沢　秋蔭坊
孫めとさや泡しも垂むむの雲　名古屋　菓苞
交もそうを蓬よまてやきし百合　帯渓
風流のまちくもしめ設やりに　馬六
咲かてもまりーよその花々子　波年　東波

[illegible]

菖蒲湯や[illegible]　陸五

麦秋や[illegible]の[illegible]　谷周

一[illegible]　二牧

芋の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　玉水

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]山や 庵も 桑和し 紫角 [illegible] 梅二
育月や [illegible] 西の 梅加藏 金谷 梅信
[illegible] の [illegible] 郭公 孫金 利芽
流仏や [illegible] 京 伺也
[illegible] の [illegible] 葉曲
[illegible] 利邦
[illegible] 梅
[illegible] 鶴田 里邨

お [illegible] 枝や [illegible] 有林
[illegible] 馬橋
[illegible] 佳遠
あやめ [illegible] 松二
[illegible] 窮里
[illegible] 糸美川 施文
[illegible] 竹以
夫婦 [illegible] 雞声

[illegible] 川 [illegible] 孝与
[illegible] 一方
一[illegible] 一茶
[illegible] 二考
二[illegible] 牧牛
[illegible] 田[illegible]
[illegible] 菜溪
[illegible] 東嶺

[illegible] 医中
[illegible] 細 [illegible]
[illegible] 可[illegible]
[illegible] 麻原
[illegible] 芳[illegible]
[illegible] 空[illegible]
[illegible] 右之

けふの於竹の一念よ年々を経しても今の息ハかゝるゑくぼちや

時雨れ

神仏祈る言葉も神よこそ

備後国 百竹

秋の部

初雁のうれしさあまりや今此月　武江 風錦

落うし風こしらへて今年の秋　年稼

名も知れやゆかしきものとおもふ笑る時　琴吹

星合や桂男もさしのぞきかゝり　岸松 抱而

萩芒のゆりしかえておきふし　大山 仙甫

ゆかしさも秋の白し高帆片帆　小国 常花

送火や秋月見送り片付り　林濤 風虎

玉まくりみしてけり秋のかなしい　市柁

秋の口さくや桔梗の絞より　福井　一色坊

踊らなきのよふし中やなの月　可推

若衆の謡ミておもしろ麻の秋　名古屋　丁牧

菊酒や陶淵明か杖の隣　山縣　東羽

秋風やたのもの入つきい見るむ時　大垣　求恩

虫の噂浅まら絡ゑやたふ此月　伊尾　完竹

けり秋や梢の暮にとゞまりし　夜帆

打紙の氣法師さもし清の月　永池

枝打ちもんしておれ萩の花　李鳩

秋立やまころ直まとめ風霜　岐阜　乙桃

名月やまるのあしくの紀こう徳　笠松　杜流

柳より先へ一ちりけり葉の飛　小方　東阪

蜜塚や何能うまるく虫の声　宇和

けり秋の花と作りや菱畑　津幡　見風

名月の天氣むしや休枝　金沢　会朶

名月や女子の声なる山もとの　珊瑚

川風をあらしといふ木槿かな　虎賊（撰山）

白紙のもくもくとなるや後の月　千詩（おなし）

藁の香に松ぬいたる菓子哉　菓子（松仙）

ちよ

ぬるらしも橋よりわたす天の川　作風（新浮）

菖の葉に表ありけり　梨洞

ふりそそぐ雨もうつくしき秋　桃渓

草畑に蓋ぬ人やうるむ月　水鳥

名月や和家物語絶たるれ　茅流

雲かりと見てもうらふる雁の音　抗山

月秋や月も叶ふの美月哉（巻）

草物や寒ふるとを松に四つ　左文（三松山）

蛙蛉やり遠ふくちる昌左（化義子）　梅芳

松陰や原風流一て　菓文

秋山ふる郭を地蔵　波狼

行点の星うつ秋のおもふ　風垂

名月やなつかしさまでに雲もあり　今枝 敏民

一さかりおもき菊や露の秋　北童

川秋の夜流しあり康秋　三枝

秋淋しこぼれかゝりて草の花　和流

淋しさの一坂越えやかゝりける　万和

細道やひと言か庵も旅の時　京丹

起稲よ咲きさくら吉田は　宿 千糸

涼しさやおもしろめ近江の秋さへは　糸魚川 佐藤

星の夜の寄は揺りぬ紙さに　長岡 流沖

雉やこゝや手毛しちるゝの秋　中浜 杜角

月まては清しさまゝのみやこの秋　淡当

鄙の童よ咲くやさく萩のむら　柏尾 牧石

さけ笠よ月にされぬかおどりは　鶴田 雄花

ちるれや月ちる垣よ咲かゝり　小須戸 寛柳

虫もなくあされ織めふかゝえは　荻島 東菊

八朔やさゝめあらしき釜の湯ゑ　下条 世柳

[illegible] 紅流

[illegible] 紅の[illegible]も花[illegible]ら天の川 [illegible] 浩山

[illegible]時肖の物や[illegible]星 [illegible]二

名月や[illegible]れ 名小紅 [illegible]川 虎棠

秋の色[illegible]や [illegible]田 文菱

名月や[illegible] [illegible]仲 山外

十六夜や[illegible]の松 文香

松[illegible]の[illegible]の秋 [illegible]

[illegible]花御

名月や偶[illegible]

[illegible]月 [illegible]尺

[illegible]月 [illegible]中

来[illegible]一[illegible]秋[illegible] [illegible]言

川[illegible]一[illegible]の秋 [illegible]東里

[illegible]名[illegible]秋や[illegible] 由素

[illegible]の[illegible]の [illegible] 春水

[illegible]の[illegible]の[illegible]山[illegible] 右之

まよあれ梧桐井をとの
咲ゑ添しく花の流れ
秋ありとも頬ハ黄鶴坊の
声を許せる似非おかしさ
花落ちて雨—
漏れやかて雲あひて　柄の月

枕主人
以酉坊

[illegible]の部

静まりて寄る月影の床ちかく　尾府 [illegible]
秋のこゑ川に月や沖の雲　蔦山 雨芝
鶴八や秋をあかしそれ北山　岐山 佐才
[illegible]の[illegible]月を見る　金枝
八乙女やそれ山化粧に沖近　大垣 鳥六
をのあら[illegible]の[illegible]　伊尾 乙春
川秋よ[illegible]　[illegible] 麦士

井戸端や盛して撫しき萱の花　棠陰

人似よ物写ふあとやこちの雪　（伊勢）紙守

一日涼し月の明りにもられ人ふ　笈郷

しらしらの砕えてしる所明日　（備中）柳几

九年母の菩提樹ちらさ十ほとゝ　（相川）楚僕

白似茶に火燵あくらや人似たし　（今夜）素留

世々川の実や菊しなく所明月　（長崎）南杣

風の見れくくつるや涼のかど　（不詳）嵐二

紅さして釣や他力の今宵月　東和

鷲磐や治まりし人を迎ひ菖蒲かな　（小松）東丈

いかほどけしは深尾の背戸の明りかな　（大洲）江柳

摘ハや背れたし山の山　（?）杜明

与謝の垂しよちらそもかな　（?）翔波

人ありとちりや許の雨雪　（?田）一琴

引の袖のうえを飛らちそりかな　九清

蝶の夢さまもる火燵やほそ杜丹　初休

けふ見る柳もさびしゆかりなし　花井
七賢の為にはほかや竹の宿　村上 和来
男ふたりふたりすゝめて神送　新潟 文先
熟く鮮やかにも柳色の枯葉　知還
襟巻くさくるゝ爐あり鍛仲子　山市
見れ柳に冬は[illegible]一[illegible]　素吟
[illegible]て[illegible]仙台　柳巴
巻竹や村[illegible]にも[illegible]　文路

年々田をみのりの[illegible]や神送　隠市坊
鶯や鳥と[illegible]　連中 芦北
[illegible]入りの[illegible]仙台　文蛙
[illegible]の葉も[illegible]や神近　桐賀
[illegible]　空観
[illegible]て木の[illegible]　以文
やうて摘む若菜の[illegible]　二人 抱作
[illegible]松の音　右之

新春田と云々 治兵の
伺来其四氏 云々辛丑
長月 云々 かしを
云々いけれ 業用もちれ

元文六

桃印のもちゐ
付ちゐ

京寺町二条
橘屋治兵衛板

武尭の死作

佐藤

第6398
受入
36. 3. 14